

名古屋SF読書会12日本沈没 2018・7・21

名古屋SF読書会URL <http://www.ne.jp/asahi/science/fiction/dokusyokai/>

小松左京と言えば、言わずと知れた日本SF界の巨匠。『日本沈没』は氏の数ある作品のうち、最大のヒットとなった作品で、1973年3月の刊行以来400万部を売る大ベストセラーとなり、年末には東宝が映画化（森谷司郎監督）し、翌年にはテレビドラマ化され漫画化（さいとうたかを）もされるなど、オイルショックによって高度経済成長にも陰りが見えた時流に乗って、大いに世を騒がし、「沈没」ブームを巻き起こした。日本推理作家協会賞、星雲賞を受賞している。2006年には樋口真嗣監督により二度目の映画化がなされたが、多くの変更があり、賛否両論を呼んだ。映画化に合わせる形で、谷甲州との共著により『日本沈没 第二部』が刊行された。

【主な登場人物】

小野寺俊夫…「彼は“自然”を知ってる。彼の心は大いなる“自然”に向かっている」

深海潜水艇の操艇者。海底開発KKで勤務していたが、後にD計画に参加。

田所博士…「科学者にとって、最も大切なものは、鋭く、大きなカンなのです」

和歌山出身。地球物理学の権威。既成の学者の枠に収まらない野人タイプのアウトロー。早くから日本沈没を予見し、個人研究所を設立。D計画を推進するが、途中で離脱。日本とともに死を選ぶ。

阿部玲子…「私、あなたの中に海を感じた」

地方の名家の長女。逗子の別荘で小野寺と運命的な出会いを果たす。一年半後、再会した小野寺と結婚の約束をするが、富士山噴火で生死不明に。

マコ（摩耶子）…「あなた、お酒を水のように飲むのね」

銀座のバー「ミルト」で働く「ちょっと変わった娘」。後に、白馬乗鞍で遭難し、小野寺と再会。ラストシーンで八丈島の丹那婆伝説を語る。

幸長…M大学の海洋地質学者。政治的手腕に長けている。D計画の中心人物。

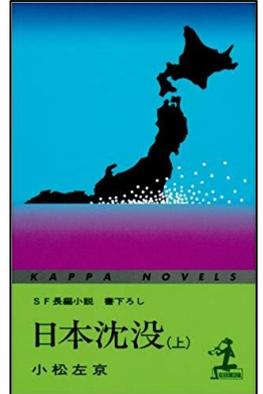
中田一成…情報科学専攻の切れ者。確率無限小の現象が起きる原因を説明した理論は「ナカタ過程」と呼ばれる。幸長とともにD計画を推進していく。

片岡…防衛技研に勤務。少年のような丸い顔をした機械に関する天才。D計画のメンバーの一人。

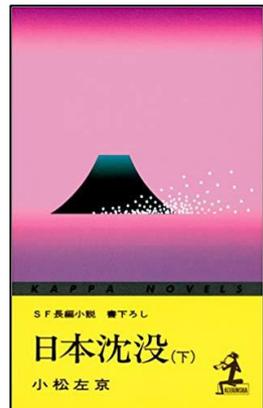
邦枝…渡り老人と同郷。老人の手引きで総理府に入る。

渡老人…「おふくろというものは、死ぬこともあるのじゃよ」

政治の世界を裏で動かす百歳の老人。両親を噴火で亡くすが、明治、大正、昭和を生き抜いた。父親は清国の僧侶。



カッパ・ノベルス
1973年3月
表紙画・伊藤憲治
本文イラスト・日暮修一



スタッフ&ゲスト紹介

名古屋SF読書会は初心者からマニアまでをモットーにやさしく丁寧、かつ面白い読書会を目指しています。今後もよろしくお願いたします。

- 1) 長澤唯史 2) @Sonopapa
- 3) 『文藝別冊キング・クリムゾン』の増補新版が出ました。よろしくお願いたします。

- 1) 渡辺啓一 2) @eleking
- 3) 読書力が年々落ちつつある五十代です。読みたい本は沢山あるのに全然追いつかない！SFは時々、のつもりがやっぱ長年つきあってるので割合的には多いです。名作の読み落としをカバーしていきたいです。

- 1) 舞狂小鬼（洞谷） 2) @okiraku_k
- 3) SF、幻想小説、ミステリー、学術系など何でも読む雑食系です。『日本沈没』は懐かしいです。今読むとどんな風に感じるのか楽しみです。
- 4) スタージョンなどやれるといいですね。

- 1) 渡辺睦夫
- 3) SFファン。音楽ファン。好きな作家はコードウェイナー・スミスやジェイムズ・ティプトリーJrなど。好きなミュージシャンはジュールズ・シアー、ピーター・ケイスなど。

- 1) 片桐翔造 2) @gern
- 3) SFを読んだりミステリーを読んだりB級映画を見たり。

- 1) 渡辺英樹 2) @gonza63
- 3) 『シェイプ・オブ・ウォーター』『犬ヶ島』と最近面白い映画はFOXサーチライト製作が多いなあと思っている渡辺英樹です。小松左京は『果しなき流れの果に』が一番だと思います。
- 4) そろそろクラークかアシモフ？

中村融／なかむらとおる（翻訳家）
中央大学在学中より海外SFの研究、評論、翻訳など幅広い活動を行う。1987年にジャック・ヴァンスの「五つの月が昇るとき」で翻訳家としてプロデビュー。以降、新作の翻訳紹介、古典の新訳、SF／ファンタジーのアンソロジー編集など、多方面で活躍中。



【参考】『果しなき流れの果に』第七章「狩人たち」より

「二十一世紀の半ば、思いもかけぬ大地震と地質変動で、日本列島がわずかな高山頂をのこして、海底にしずんでから、この古い歴史をもつ、文明度の高い、エネルギー豊かな民族は、祖国を失った、さまよえる民となった。／そして、恒星間開発期にいたり、はるかな宇宙空間の彼方に、未開発の地球型惑星があるという風評を耳にするや、二十年にわたる猛烈な運動の結果、ついにここに、最初の二百家族が、第一団として、 α C IVにむかって、旅立つこととなった。」

小松左京長篇リスト ※全20冊、意外と少ない。

『日本アパッチ族』(1964)
 『復活の日』(1964)
 『エスパイ』(1965)
 『明日泥棒』(1965)
 『ゴエモンのニッポン日記』(1966)
 『果しなき流れの果に』(1966)
 『見えないものの影』(1967) ジュヴナイル
 『空中都市008』(1969) ジュヴナイル
 『見知らぬ明日』(1969)
 『宇宙漂流』(1970) ジュヴナイル
 『青い宇宙の冒険』(1972) ジュヴナイル
 『継ぐのは誰か?』(1972)
 『日本沈没』(1973)
 『題未定』(1977)
 『こちらニッポン…』(1977)
 『時空道中膝栗毛』(1977)
 『さよならジュピター』(1982)

『首都消失』(1985)
 『虚無回廊』(1987) 未完
 『時也空地球道行』(1988)

短篇集

短篇集は多数あるが、ハルキ文庫からテーマ別傑作集が8冊出ており、お勧めである。

『結晶星団』(1998) 宇宙SF
 『時の顔』(1998) 時間SF
 『物体O』(1999) 本格SF
 『日本売ります』(1999) ユーモアSF
 『男を探せ』(1999) SFミステリ
 『くだんのはは』(1999) ホラーSF／女シリーズ
 『高砂幻戯』(1999) 芸道もの／女シリーズ
 『夜が明けたら』(1999) 恐怖SF

他にも、小松SFの総決算とも言うべき『ゴルディアスの結び目』(1977) は必読。